

家族内性愛に関する研究

(分担研究：小児の健康と養育条件に関する研究)

荒堀憲二*，番内和枝*

要約 家族内性愛（INCEST）の実態と発生要因を探る目的で、全国14の思春期電話相談所を対象に調査を行った。その結果

- 1) 全体で249例の回答を得、そのほとんどが思春期男子からの相談であった。
- 2) 家族内性愛のパターンは、母一子、義母一子、兄弟一姉妹、義兄弟一姉妹、叔母一甥を認めた。
- 3) 性交に至った者が約7割を占め、誘引はマスターベーションに関するものが44%と最も多かった。
- 4) 相談者の半数以上は自分の行為を否定的にとらえていた。
- 5) 家族内性愛の発生した家庭では、同胞が少なく母一子関係では父親不在の家庭が多かったが、経済状態、精神身体状況等に特徴的な傾向は認められなかった。

以上より電話相談に見られる家族内性愛は、特別な家庭の出来事ではない可能性が示され、性教育や電話相談によるカウンセリングを充実させると同時に、親子の係わりをさらに研究する必要性が示唆された。

見出し語 Incest, 家族内性愛, 近親相姦, 電話相談

はじめに 家族内性愛¹⁾は、対人関係の「歪」の際だったものと考えられ、その実態を調査し分析することは、家庭における養育機能や人間関係のあり方に示唆を与えるものと考えられる。昨年度はこれらの実態調査として、児童相談所およびモデル電話相談所での資料収集、事例調査を行い、父一娘関係および母一息子関係について報告した。今年度は電話相談所において、さらに対象、項目を広げて家族内性愛の実態を調査した。

研究目的 家族内性愛の実態と発生要因を検討する。

調査対象 厚生省の健全母性育成事業の一環として、思春期電話相談事業を行っている14道府県の相談所を対象とした。

調査期間 ①平成元年4月から平成2年3月までの1年間と、②平成2年7月から10月までの4カ月間とした。

調査方法

①平成元年度分については、各相談所に調査表を送付し、相談記録を集計し記入後返送してもらった。

②平成2年分については、電話相談時の情報収集用の調査表を送付し、記入後返送してもらった。

平成元年度の調査内容は、相談員や相談所により記録方法が異なることを考慮し、調査項目は15項目とした（調査表1）。平成2年分は、昭和58年の全国児童相談所が行った虐待に関する調査内容を参考に前年度の研究結果を踏まえ、

* 国立公衆衛生院母子保健学部（Dept. of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health）

プレテストを行って32項目を選んだ(調査表2)。

結果

I 平成元年度・2年度共通項目

① 地域別回答数(図1,表1)

回答は8施設から得られ、回収率は58%であった。有効回答例数は全体で182例、地域別回答例数は、多い順位に東京、北海道、福岡、兵庫、新潟、香川となっていた。また平成2年度分の有効回答数は67例であった。

② 電話相談における家族内性愛のパターンとその頻度(図2,表2)

平成元年度分で見ると、実母一子(男)、実兄弟一姉妹、義母一子(男)、叔母一甥、義兄弟一姉妹などがあつた。頻度は全体では実母一子が52.7%と最も多く次に、実兄弟一姉妹が26.4%の順であった。この頻度順位は性交群でも同じであった。平成2年度分の頻度は、実兄弟一姉妹も多かった。また実父一娘が2例あつた。

③ 相談者の所属(表3)

平成元年度分では相談者の平均年齢は17.44±2.281歳で、所属は高校生が64.8%で最も多く、大学生、中学生の順であった。平成2年度分では年齢は17.06±3.46歳で高校生、中学生、社会人の順であった。

④ 平成元年度分の実母一子間の年齢は図3に示した通りで、平均の年齢差は23.4歳であった。また便宜的に決めた性的な接触程度は表4の通りで、性交に至っている者の方が多く、66.5%を占めていた。

⑤ incestのきっかけはマスターベーションに関するものが最も多かった(表5)。

⑥ incest行為での避妊・妊娠の経験(表6)

性交あり群での避妊の有無、妊娠の有無は表の通りで、情報がとれているケースは少なかった。incest行為での避妊経験は、平成元年度分では、有り、無し、不明の順に10例、14例、98例であった。避妊経験有り10例の内訳は、実母4例、実妹3例、義母2例、義妹1例であった。妊娠無しは23例、不明が98例で妊娠した者は確認できなかった。

平成2年度分では、妊娠有りが1例で、相手は叔母であった。また避妊経験有り9例の内訳

は、実母・実姉各3例、実父・義母・実妹各1例であった。

⑦ incest的な行為に対する本人の考え方(表7,図4)

良くない、やめたい、不安などの否定的な考えを示す者が多く、この傾向は性交群でも同じであり、また平成2年度の調査でも似た傾向が認められた。

incestに対するタブーは存在しているようだが、電話というメディアの有する匿名性が申告を容易にしているものと考えられる。

⑧ incestが始まってから相談までの月数は様々であった(表8)。

⑨ incestのタイプと父親の存在(表9,図5・6)

実母一子では「不在」が最も多く、義母一子と兄弟一姉妹のタイプでは「同居」や「不在がち」が多かった。また父親不在の方が性交に至りやすいようであった。ただし、「不在」は離婚、別居、「不在がち」は不在がちや単身赴任、「同居」は普通に同居している場合とした。

⑩ 母一子間のINCESTと同胞の有無(表10)

不明例が多いものの、同胞が少なく特に男の同胞は殆どいなかった。

II 平成2年度追加項目

⑪ 相談内容の真偽を相談員に尋ねたところ、真実だと思う30(44.8%)例、イタズラだと思う12(17.9%)例、不明25例(37.3%)であった。

⑫ 相談者の性別は男性64例(95.5%)、女性3例(4.5%)で、3例とも十代の女子であった。

⑬ 家庭の経済状態(表11)

情報のとれていない例も多いが、「普通」が多く、「悪い」は2例、また生活保護を受けている例はなかった。

⑭ 相手が実母・義母・叔母の場合の職業・学歴・夫婦仲(表12)

これも情報が取れていない例が多いが、特徴的な傾向は特にないように思われる。

⑮ その他

身体の相談をしてきた本人と相手に各1例づつ身体の異常が認められた。精神異常は認められなかった。なお相手の性格、生活態度、本人

の性格などについては、情報が得られておらず、今回の検討から省いた。

考察と課題 実母一息子 incest の家庭的背景として、父親不在、兄弟不在の傾向は明らかであったが、それ以外の incest ではこの傾向は認められなかった。また実母や義母、叔母などには、学歴、職業、夫婦仲、経済状態、精神身体障害などの点で、特別な傾向を認めることはできなかった。すなわち電話相談に表れる incest は、昨年度報告した父一娘 incest の家庭背景と大きく異なっていて、普通（とみなすことができる）の家庭に起こり得る出来事、といえる側面を持っていた。

また思春期の電話相談においては、男子からの相談が圧倒的に多く²⁾、女子からの相談や父一娘の incest の相談が少なかったことから、男子と女子の incest では発生頻度やタブーの強さが異なるものと考えられる。タブーは文化背景によって異なり、米国では父一娘 incest に対するより、母一息子 incest に対するタブーの方が強く、母一息子 incest の場合の母親は精神異常者とする考えも強い³⁾。しかしわが国では母子を一体とみなし、母子密着を容認する文化傾向が強いように思われ⁴⁾、このことが母一息子 incest のタブー意識を弱めている可能性がある。タブー意識が強ければ、不安、孤立、抑鬱状態などに陥り、精神障害も出現するが、今回の調査で本人のタブー意識はあるものの、精神障害は認められなかったことから、タブーに悩む程度は弱いものと思われる。さらに核家族化、少産少子化、父親の単身赴任などの社会情勢の変化による潜在的母子家庭の増加が、母子密着の度合いを強めているものと思われる。

しかし母子に性的欲求と愛情欲求を統合できない関係にあるから、そのことに悩み不安を抱きながらも incest が続けられる時、問題が生じる可能性がある。今後、incest の終わる時期、

その後の精神的性的自立などを知る必要があるものと思われる。また incest のような行き過ぎた密着が、アタッチメント的な行為の継続として行われているのか、あるいは二次性徴の見られる時期になって初めて現れるのか興味ある問題である。親子の係わり方をさらに研究する必要があるものと思われる。

今回の調査でも、incest のきっかけがマスターベーションに関係したものであることが最も多かった。マスターベーションは一人で行うべき行為であり、性的自立のステップとしても必要な行為と考えられ、これに異性の家族が介在することは好ましくない。今後家庭や学校での性教育で、マスターベーションをしっかりと教えていくことが必要である。また入浴や旅行、ベッドの共有など incest を誘発しやすい行為が、何歳くらいまでどの程度行われ、タブーとされる限界はどの程度なのかを知る必要があるであろう。

「相談はイタズラではないか」という疑問も持たれるが、44.8%の事例で対応した相談員が「真実」と受けとめており、電話相談でのカウンセリングが望まれる。カウンセリングの目的や方法について、今後検討する必要がある。

文 献

- 1) 南 博：家族内性愛。小児医学，19，129-144，1986。
- 2) 川名紀美：密室の母と子。潮出版社，東京，1984。
- 3) Wahl, C. W. : The psychodynamics of consummated maternal incest: A report of two cases. Archives of General Psychiatry, 3, 96-101, 1960.
- 4) 曾根トシ：電話相談にみる青少年のストレスと母親の関係。現代のエスプリ，No 227，155-171，1986。

Abstract

Study on the incest in Japan

Kenji Arahori *, Kazue Bannai *

In order to clarify the background of incest families and causative factors in Japan, two hundred and forty nine cases of incest were investigated in fourteen telephone service centers for adolescents in Japan.

- 1) Almost all clients were male. Main types of relationship included Son/Mother, Son/Mother-in-law, Brother/Sister, Brother/Sister-in-law, Nephew/Aunt. About seventy per cent of clients were committed.
- 2) The most decisive incidents leading to incest were related to masturbation.
- 3) More than half of clients had negative feelings to keep sexual contact with their family members.
- 4) In Son/Mother(in-law) incest families, there few brothers and fathers, but there were no other characteristics in other familial background, for example, in physical, psychological or economical background.

From these findings, it is suggested that incests observed in telephone services in Japan might be incidents occurred rather in common families but not in special families.

Sexual education and telephone counseling should be encouraged, and study of mothering/fathering is also needed to resolve incest related problems.

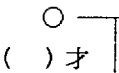
Key words: Incest. Sexual abuse. Counseling by phone.

家族内性愛（インセスト）調査用紙(2)・電話相談用

インセスト について

1. いつから () 2. きっかけ ()
3. 妊娠の有無 1)あり 2)なし 4. 避妊の有無 1)あり 2)なし
5. 相談内容の真偽 1)真実だと思う 2)イタズラだと思う 3)不明

相談者 について

1. 相談年月日・・ 年 月 日 (2回目 / 3回目 /)
2. 年齢 ()才 性別・・ 男性・女性
3. 住所 ()県 ()市
4. 職業 ()学歴・・ 中卒・高卒・高校中退・大卒・その他 ()
5. 成績・・ 上・普通・下・
6. 体格・・ 身長____cm・体重____kg・初経____才・精通____才
7. 家族構成  同居家族 ()人
()才 | ()才

父・母の存在・・ 1)死亡 2)離婚 3)非婚 4)単身赴任 5)不在がち
6)普通に同居

両親の夫婦仲・・ 1)良い 2)悪い 3)普通

8. 住宅構造 (部屋) 1)広い 2)狭い 3)普通
9. 家庭の経済状態 (生活保護 有・無) 1)良い 2)悪い 3)普通
10. 身体異常 1)あり 2)なし 11. 精神異常 1)あり 2)なし
12. インセストに対する考え方 1)良くない 2)構わない 3)分からない
4)やめたい 5)続けたい 6)どうでもよい
13. 生育途中における両親への反抗期 1)あり 2)なし
14. 友人 1)あり (多い・少ない・親友・恋人・その他) 2)なし

相手 について

1. 相談者との続柄 () 2. 学歴 ()
3. 性的な接触程度 1)性交 2)キス 3)ベッティング 4)入浴 5)その他
4. 相手の年齢 ()才 5. 相手の職業 () ()
6. 相手の考え方 1)良くない 2)構わない 3)分からない
4)やめたい 5)続けたい 6)どうでもよい
7. 精神異常 1)あり 2)なし 8. 身体異常 1)あり 2)なし
9. 生活態度 1)まじめ 2)ふまじめ 3)飲酒有 4)趣味・将来の希望有
10. 性格 1)穏やか 2)怒りっぽい 3)明るい 4)暗い 5)その他 ()

表 1

地域別有効回答数

	平成元年										平成2年	
	全体 (%)	実母子	兄弟姉妹	義母子	義姉妹	叔母	全体 (%)					
東京	75	41.2	43	57.3	24	32.0	8	10.7	0	0	32	47.8
北海道	25	13.7	18	72.0	2	8.0	4	16.0	1	0	10	14.9
福岡	25	13.7	7	28.0	11	44.0	2	8.0	4	0	7	10.4
兵庫	21	11.5	6	28.6	6	28.6	2	9.5	1	6	0	0
新潟	19	10.4	12	63.2	3	15.8	2	10.5	1	1	4	6.0
香川	10	5.5	6	60.0	1	10.0	2	20.0	0	1	0	0
広島	4	2.2	2	50.0	2	50.0	0	0.0	0	0	0	0
神奈川	3	1.6	2	66.7	0	0.0	1	33.3	0	0	2	3.0
宮城	0										12	17.9
計	182	100	96		49		21		7	8	67	

図 1 地域別有効回答数 (平成元年)

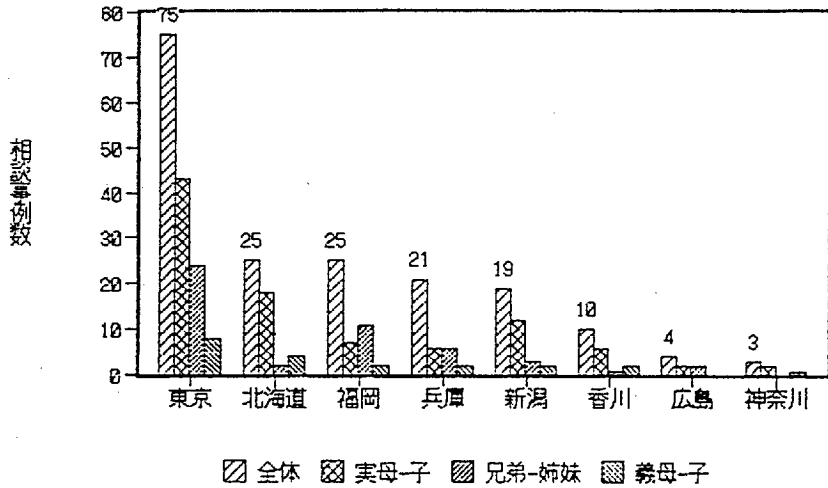


表 2 相談者の相手

	元年	%	2年	%
実父	0	0	2	3.0
実母	96	52.7	26	38.8
実姉妹	48	26.4	21	31.3
義母	21	11.5	11	16.4
叔母	8	4.4	2	3.0
義姉妹	7	3.8	3	4.5
実兄弟	1	0.5	0	0
他	1	0.5	2	3.0
合計	182		67	

図 2 INCEST相談者の相手
(平成元年)

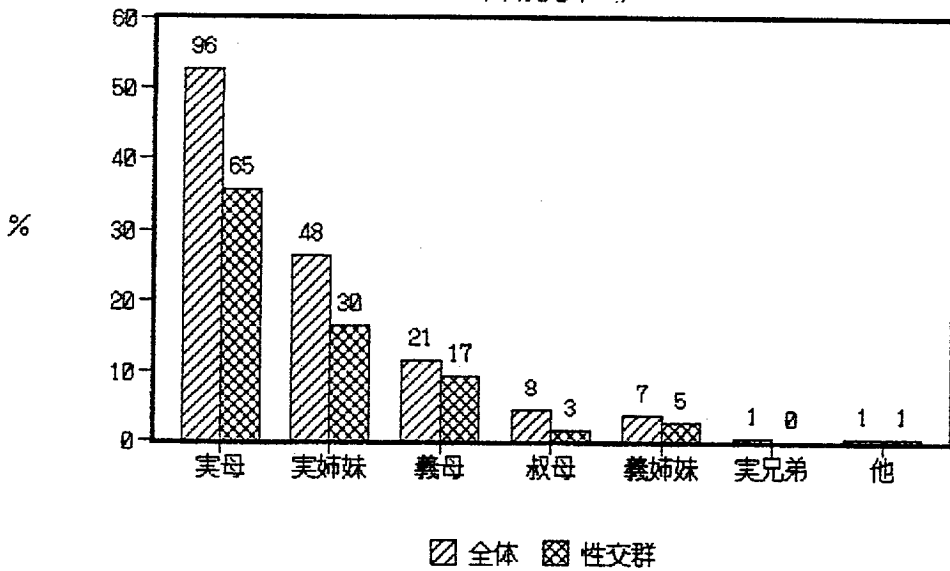


表3 相談者の所属

	平成元年						平成2年	
	total	%	SEX(+)	%	SEX(-)	%	total	%
小学校	1	0.5	0		1	1.6	1	1.5
中学校	16	8.8	10	8.3	6	9.8	13	19.4
高校	118	64.8	77	63.6	41	67.2	43	64.2
大学	18	9.9	13	10.7	5	8.2	1	1.5
社会人	14	7.7	10	8.3	4	6.6	6	9.0
無職・他	11	6.0	7	5.8	4	6.6	2	3.0
不明	4	2.2	4	3.3	0		1	1.5
合計	182		121		61		67	

表4 接触程度

	元年		2年	
	total	%	total	%
性交	121	66.5	48	71.6
ベッティング	33	18.1	13	19.4
入浴	11	6.0	4	6.0
キス	2	1.1	2	3.0
その他	12	6.6		
不明	3	1.6		
合計	182		67	

表5 INCESTのきっかけ

	平成元年		平成2年	
	total	%	total	%
MAS*	80	44.0	24	35.8
入浴	9	4.9	9	13.4
旅行	3	1.6	0	0
その他	40	22.0	20	29.9
不明	50	27.5	14	20.9
合計	182		67	

* マスターベーション

表6 INCEST行為での妊娠・避妊の経験
(性交あり群)

	平成元年		平成2年	
	total	%	total	%
妊娠あり	0	0.0	1	2.1
なし	23	19.0	30	62.5
不明	98	81.0	17	35.4
合計	121		48	
避妊あり	10	8.3	9	18.8
なし	14	11.6	14	29.2
不明	97	80.2	25	52.1
合計	121		48	

表7 INCESTに対する考え方（本人）

	平成元年				平成2年	
	全体	%	SEX(+)	%	全体	%
良くない	72	49.7	48	49.0	17	29.8
やめたい	21	14.5	17	17.3	12	21.1
不安	5	3.4	3	3.1	3	5.3
構わない	12	8.3	8	8.2	10	17.5
続けたい	4	2.8	3	3.1	4	7.0
分からない	31	21.4	19	19.4	11	19.3
合計	145		98		57	

表8 電話相談までの期間（月）

	平成元年			
	MEAN		SD	MIN-MAX
実母	8.53	±	12.03	0-60
実姉妹	4.82	±	8.37	1-36
義母	3.92	±	3.80	1-12

表9 SEXの有無と父親の存在

	平成元年				平成2年			
	SEX(+)		SEX(-)	TOTAL	%	TOTAL	%	
実母-子								
同居	10	20	10	37	20	24.4	2	8.3
不在	31	54.5	12	44.4	43	52.4	16	66.7
不在がち	14	25.5	5	18.5	19	23.2	6	25
計	55		27		82		24	
義母-子								
同居	11	68.8	4	100	15	75	3	27.3
不在	1	6.3	0		1	5	1	9.1
不在がち	4	25	0		4	20	7	63.6
計	16		4		20		11	
兄弟-姉妹								
同居	17	70.8	9	81.8	26	74.3	14	73.7
不在	6	25	2	18.2	8	22.9	4	21
不在がち	1	4.2	0		1	2.8	1	5.3
計	24		11		35		19	

表10 INCESTのタイプと同胞の有無

	実-母子		義母-子	
	元年	2年	元年	2年
兄弟	1	2	0	1
姉妹	8	2	3	0
なし	49	16	10	9
不明	38	6	8	1
合計	96	26	21	11

相手	経済状態			
	良い	悪い	普通	不明
実父	0	0	1	1
実母	4	1	12	7
実姉妹	1	0	7	12
義母	1	0	6	4
義姉妹	0	1	1	1
他	0	0	0	4
合計	6	2	27	29

表 12 実母・義母・叔母の職業・学歴・夫婦仲

職業					
主婦	常勤	パート	自営	他	不明
6	3	10	1	1	16
学歴					
中学	高校	大学	不明		
1	7	4	29		
夫婦仲					
良い	悪い	普通	不明		
4	4	6	11		

図 3

実母-子の年齢
(平成元年)

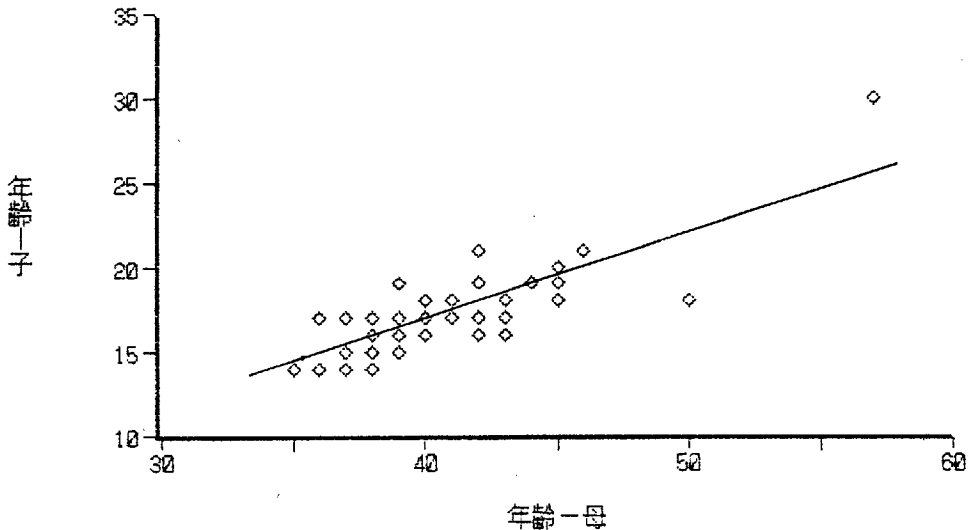


図4

INCESTに対する考え方(本人)

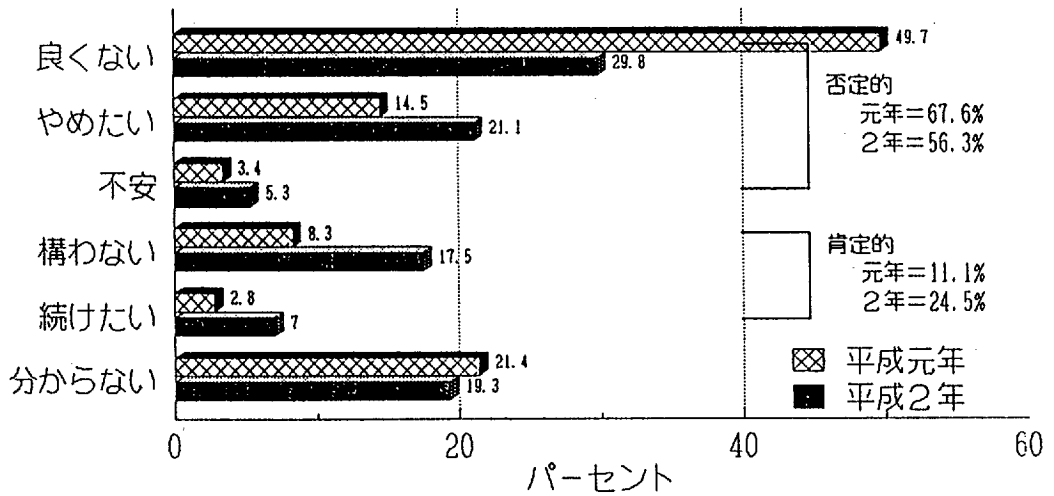
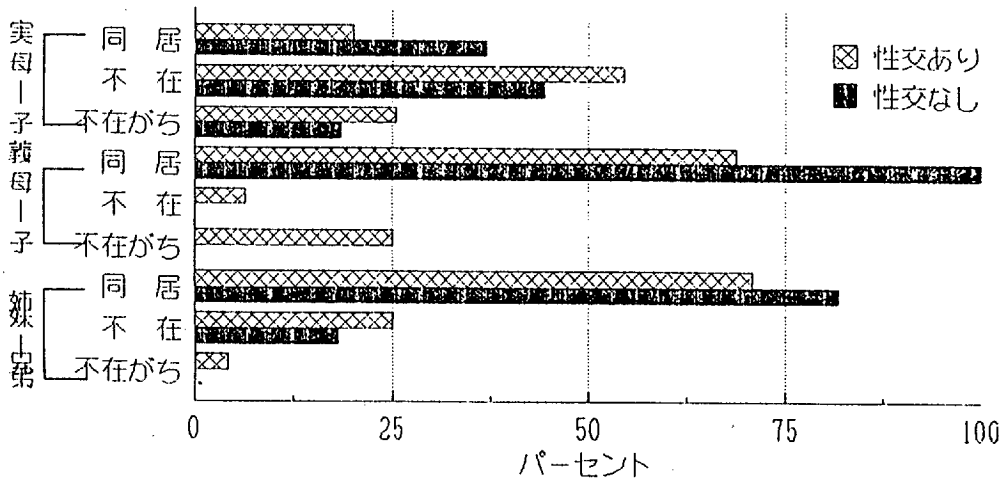


図6

INCESTのタイプと父親の存在 (性交の有無による違い) 平成元年



INCESTのタイプと父親の存在

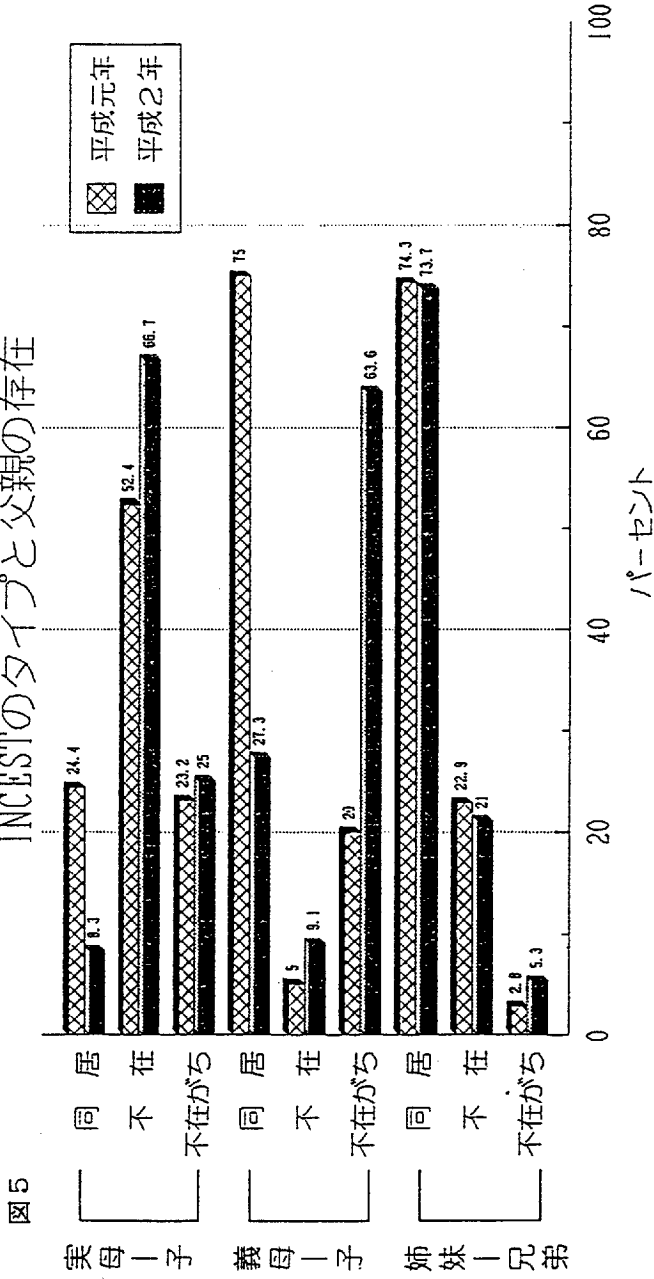
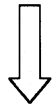


図5

実母子

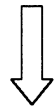
義母子

姉妹兄弟



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 家族内性愛(INCEST)の実態と発生要因を探る目的で、全国14の思春期電話相談所を対象に調査を行った。その結果

- 1)全体で249例の回答を得、そのほとんどが思春期男子からの相談であった。
- 2)家族内性愛のパターンは、母 - 子、義母 - 子、兄弟 - 姉妹、義兄弟 - 姉妹、叔母 - 甥を認めた。
- 3)性交に至った者が約7割を占め、誘引はマスターベーションに関するものが44%と最も多かった。
- 4)相談者の半数以上は自分の行為を否定的にとらえていた。
- 5)家族内性愛の発生した家庭では、同胞が少なく母 - 子関係では父親不在の家庭が多かったが、経済状態、精神身体状況等に特徴的な傾向は認められなかった。

以上より電話相談に見られる家族内性愛は、特別な家庭の出来事ではない可能性が示され、性教育や電話相談によるカウンセリングを充実させると同時に、親子の係わりをさらに研究する必要性が示唆された。